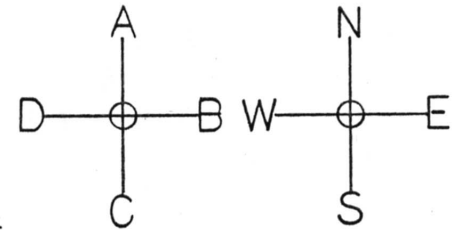


◆ 外部仕上げの概要。

※ 外部の拾い出し(積算)にあたり内部仕上げと同じく、各種工事凡てをもうらした数値を、「木材拾い出し明細書」に記載すること。

• 計測・計算(積算)の手順として、「線状部位」・「特別工作部位」・「面状部位」の3つの部位に大別する。「特別工作部位」とは、線と面は別離しにくい工作物のことで、出格子窓・ひじ掛け窓・戸袋・庇・廂・バルコニー・濡れ縁・その他雑・などがある。

• 外部の計測・計算(積算)順位の区分けについて、原則として面ごととする。基本として「建物の正面」・「右側面」・「左側面」・「背面」の順位とする。



または、図面上より、A・B・C・Dの各面、または、N・E・S・Wの各面の順位とする。 順位のルールを決めること。

※ 各面ごと(欠除共)計測・計算し、各面ごとの数値をまとめること。ただし、内部と同じく開口部(1か所)が1尺2寸(360mm)角以下の場合は欠除の対象としない。

※ 各面ごとで「線状部位」・「特別工作部位」・「面状部位」分類同時算出することがよい。また線状部位と特別工作部位が重複する場合は線状部位の項で拾い出し記載する。

• 計測・計算(積算)の区分け部位手順として、「床面」～ポーチ(蹴込共)、土間・(犬走り等)・テラス等。「腰面」～幅木等。「壁面」(腰壁)。「天井面」(軒裏天井面)の部位の手順とする。

※ 換流対策・導水防止対策について。

◆ 換流対策について。～ 各種外壁材料または下地材にしみ込んだ水分や大気中の湿度が温度の変化により水滴となり、壁材(下地材)がいたむのをいかにするかが課題である。水分(水滴)をいかに早く壁材の外部(外気)へ放出するかの施工のありかた 換流のよい工法 をとり入れること。詳細施工・工法等については、外部仕上げ詳細(後編)にて記載する。

◆ 導水防止対策について。～ 外壁は風雨に晒され、壁に水が滴り、滴る水を一次的に止まるか所 壁垂直面～横面・横線(横部材見切材等)で、壁材に自然と水を上部へ導水するのを防止するか所を水切れよい工法を施すこと。

古来から遣われた、宛字言葉として、「泥障(あぶり)」があり、古来からの塗壁で定規筋をつけた(下見状)ものや、壁塗り下部に(横見切材の上部) なまこ泥障漆喰 が施されていた。古来型木造建築でよく見掛ける下屋屋根の熨斗上部のなまこ漆喰が施されている。現代工法では壁塗り下部(見切材の上部水切材を取付けて)は塗り下げずに5～10寸(15～30mm)位で壁塗り止めとし、導水防止をする。

また開口部の面台(水返し敷居)の壁面からの出や両端からの水が壁に滴りを防